





星野さんも発表の場に参加

発表者は当日まで準備にお大忙し!! 当日も緊張です



### 全体会議の風景



司会は明るく陽気に平野ノラ風の司会者固くなりすぎないように楽しい勉強会を目指しています



介護・看護・事務・調理 全ての部署のスタッフが参加



## 全体会議報告

1月21日(土)全体会議を行いました。

遅番、夜勤以外のスタッフ総勢60人が参加し、はじめに田口介護長より10周年に向けての意気込みが伝えられました。今年はずすの郷開設10周年を迎える記念すべき年です。節目の一年としてご家族との絆を更に深めていくことが出来るよう、また10周年イベント実行委員を立ち上げ、計画し、スタッフ一丸となってこれからはすずの郷を盛り上げて参りたいと思います。

後半は、ユニット発表を行い勉強会。各ユニットごとで、一人のお年寄りにスポットを当てそのお年寄りへの関わり、取組みについて発表をしました。それぞれのユニットカラーで笑いあり涙あり、他ユニットの発表を聞いて、各部署スタッフの想いもそれぞれありました。ここでは、ユニット発表の中から、3名の方の発表を簡単にまとめてご紹介します。

## 星野よし子さん

食べたいという気持ちに 応えることから

お裁縫やミシンが得意で編み物はプロ級。息子さんのセーターやご自分の服も作っておられたよし子さんは、定年まで一宮競輪で事務の仕事をしていました。6年前、最愛のご主人を亡くされたそのショックから徐々に元気がなくなっていったと息子さんは話されます。平成23年に転倒し、頭を打たれ入院された時に食欲がなくなり、胃ろうを造設されました。平成27年7月に入居された時は、口からは何も食べることができませんでした。口は開いたまま4年間胃ろうから栄養を得ていたよし子さんは、噛む力も失っていました。それでもスタッフは諦めず、毎日沢山話しかけていました。「おはよ」「ありがと」日に日にお話ができるようになり、忘れもしない入居7か月目の2月4日。お風呂から出たよし子さんはアイスクリームを「食べたい」と言われました。看護師と一緒に介助し、アイスをおいしく食べることができました。その後も順調に朝昼夜のご飯も口から食べられるようになり、私たちは驚きました。よし子さんの『食べたい』という真直ぐなお気持ちができる可能性へと繋げてくれたことに感謝しています。日常のお風呂にゆっくり浸かったり、仲の良かったご兄弟へお会いできるよう計画したり、これからも益々輝いていただきたいです。(柴田英里・石原千裕)



四年ぶりに椅子に!!



自分で食べられるように



すずフェスで

## ユニット発表の紹介

本田光江さん  
星野よし子さん  
鈴木信義さん

## 本田光江さん

どんどん元気になれる 光江さんから教わったこと

半年前、本田光江さんはすずの郷に入居されました。寝たきりで、麻痺があり、最初はお自分で食べることも出来ませんでした。しかし、同窓会へ参加したことがきっかけで光江さんの笑顔は増え、前向きにできることがどんどん増えていきました。僕が体調を崩した時も光江さんはご自分のことより僕のことを心配され、そんな日々の生活の中で、僕も変わらなきゃ!と光江さんから教わりました。それまでは『仕事』としてという部分があったと思いますが、この時『人』の為に何かをしたいそんな気持ちに自然となっていた気がします。約束した同窓会へ再び行くことができ、幼馴染のとみ子さんに会ったり、その瞬間ごとに光江さんから感動を与えてもらいました。本来、人と関わり人と繋がる、人と一緒にいる、一緒に感動する、一緒に何かをする、思えば当たり前のことなのかもしれませんが、それを改めて気づかせてくれた光江さんに感謝して、これらもお年寄りと共に一緒に楽しく過ごして行きたいと思います。(松本高広)



同窓会にて



すずフェスで涙の再会



とみ子さんと喫茶店

## 参加スタッフの感想

- ・お年寄り一人一人それぞれの人生があり、そこに携わることの大切さが分かりました。お年寄りもスタッフもみんな楽しそうでした。
- ・入居者さんの過去の歴史や周りの人々のことを知ることはとても大切なことだと思いました。
- ・すずの郷の生活を通してどんどん変わっていくお年寄りの姿を知ることが出来てよかったです。私もお年寄りのために今自分が何を出来るかを見直したいと思いました。
- ・どの発表も笑いあり、涙ありの発表でとても濃い時間でした。すずの郷で働くことができ、自分は本当に幸せだと思いました。
- ・改めて初心の気持ちを大切にしながらお年寄りに関わっていきたく強く思いました。「すずの郷で過ごせて良かった」と安心して頂けるように頑張りたいと思います。
- ・お年寄りの「したい」ことのために何が出来るか?改めて考える良い機会になりました一人一人の思いを表に出せるよう心がけていきたくと目標が持てました。

## 鈴木信義さん

笑顔が戻った信義さん

入居前は、デイサービスに通っておられた信義さん。デイサービスでの生活が合わず、ご自分の居場所を探して、デイサービスでも自宅でも、歩いて...歩いて...ご自分の足を痛めるほど歩いておられました。そしてすずの郷に入居。信義さんの顔に笑顔はなく、笑顔と言えば、入居の時持って来られたデイサービスでの唯一の笑顔の写真だけでした。言葉数も少なく、不安な気持ちを発せられるばかり。何とか安心して、すずの郷で楽しく過ごしていただきたい、笑顔を取り戻していただきたいと試行錯誤の日々が始まりました。デイサービスと同じように、信義さんはフロア内を歩かれましたが、それを止めることなく、信義さんが望まれるように過ごしていただきました。誕生日には大好きなみたらし団子でケーキを作ったり、毎日毎日信義さんに話しかけました。入居から4か月経ったある時、スタッフとの会話の中で、大笑いされました。その時一緒にいたスタッフは、嬉しくて泣きながら、信義さんと一緒に笑いました。それ以後、信義さんに笑顔が戻りました。穏やかに生活される時間が増え、ご家族との新しい思い出も増えました。すずの郷がご自宅以外の第二の居場所となり、これからも笑顔で信義さんらしい生活を送っていただきたいです。(佐久間恵美)



すずフェスでご家族と



親子で武光観光



4世代で忘年会

今後もこのような全体会議を継続し、取り組みの発表や参加者からの質疑応答、エールなど、想いを共有しすずの郷の更なる発展に努めて参りたいと思います。10年目のすずの郷もどうぞよろしくお願ひ致します。(介護長 田口剛士)